

科目名	外国語Ⅱ						
科目名(英)	Foreign language Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	30	担当者	マックス・ゴンザレス トム・エモット		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	病院を受診・入院してきた患者への看護英会話(レベルアップ)1						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				Personal Information Introducing a Friend ができる。	
	○	○				Departments & Occupations in a Hospital がわかる。	
	○	○				Emergency English を使って患者の基本情報を聴取できる。	
	○	○				Symptoms-Usage を使って患者の症状を問診できる。	
	○	○				入院時に病棟内の場所や備品を説明することができる。	
	○	○				病院の中にある備品の英語がわかる	
	○	○				Diseases(Disorders) Word を使って患者の病歴を聴取できる。	
	○	○				検査時の指示をすることができる。	
○	○				Hospital Testsの英語がわかる。		
テキスト・教材 参考図書	こころの看護英語物語 Challenge Book						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1				配布資料の事前通読		
	2	Do you work on the surgical ward? (困ったときの英語/診療科名/患者の基本情報)			配布資料の事前通読		
	3				配布資料の事前通読		
	4				配布資料の事前通読		
	5	What's your problem today? (診療手続き/症状)			配布資料の事前通読		
	6				配布資料の事前通読		
	7				配布資料の事前通読		
	8				配布資料の事前通読		
	9	This is the nurses' station.(入院時オリエンテーション)			配布資料の事前通読		
	10				配布資料の事前通読		
	11				配布資料の事前通読		
	12	This is the nurses' station.(入院時オリエンテーション)			配布資料の事前通読		
	13				配布資料の事前通読		
	14	You need to have an MRI.(検査)			配布資料の事前通読		
15				配布資料の事前通読			
評価方法	・口頭試問と筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	口頭試問・筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	看護学概論Ⅱ ヘンダーソン理論						
科目名(英)	Introduction to nursing science II: Henderson Theory						
単位数	1単位	時間数	15/30	担当者	上田朋紀		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	看護過程の展開するための基盤となる看護理論を学ぶ。ここでは、ヘンダーソンの看護に対する考え方(理論)をグループワークにて学ぶ。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1) ヘンダーソンの考える「看護の主要概念(人間・環境・健康・看護)」「看護師の独自の機能」「自立」を述べることができる	
	○	○				2) 「基本的欲求」と「基本的看護」の関連について述べるができる	
	○	○				3) 「基本的欲求」と「体力・意思力・知識」の関連について述べるができる	
	○	○				4) 「基本的欲求」と「常在条件」・「病理的状態」の関連について述べるができる	
	○	○				5) 基礎Ⅱ実習での看護の実際を以下とつなげて述べるができる	
	○	○				6) ヘンダーソンの考える「看護」を理解し、「自己の看護の考え方」を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	看護の基本となるもの						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1) ヘンダーソンの考える「看護」とは				シラバス参照	
	2	《キーワード》					
	3	ヘンダーソンの考える					
	4	「看護の主要概念(人間・環境・健康・看護)」／「看護師の独自の機能」／「自立」／「充足・未充足」／「体力・意志力・知識」／					
	5	「基本的欲求」／「基本的看護」／「基本的欲求に影響を及ぼす常在条件」／「基本的欲求を変容させる病理的状態」					
	6						
評価方法	評価: 提出レポート内容(80%)・態度面(20%) 計100% 成績評価基準は、A(91点以上)・B(81点以上)・C(71点以上)・D(61点以上)・E(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	◎					80%
	態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	基礎看護学実習Ⅱ						
科目名(英)	Basic Nursing Practice Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	臨地指導者・野中 紀子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	看護の対象を理解し、看護活動の基礎となる知識・技術・態度を学ぶ。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1.患者の療養環境について説明できる。	
	○	○				2.患者とのコミュニケーションを通し、患者のニーズについて説明できる。	
	○	○				3.人間関係が成立するまでのコミュニケーションの重要性について説明できる。	
	○	○	○			4.対象の全体像を知るためにヘンダーソン理論に基づき、系統的に情報収集ができる。	
	○	○	○	○		5.原理原則に基づいて、日常生活活動の援助技術を実施できる。	
				○		6.看護師倫理に則して実習を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	基礎看護学の講義資料 その他、基礎看護に関する学習資料 実習要綱						
授業計画	週	授業項目・内容			授業外学修指示		
	3 週 間	収集した情報を意義・標準・平均・正常化・日常性の視点で照合・比較			基礎看護学実習に必要な資料の振り返り		
		充足した状態か否かを判断し記述					
		体力、意思力、知識3つの視点から未充足の原因を考え記述					
		問題の成り行きについて記述					
		看護の方向性についての判断をした上で記述					
		感染予防の看護技術を原理原則に基づいて実施					
		与薬の看護技術を原理原則に基づいて実施					
環境	評価者:指導教員と臨床指導者。 評価基準:5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 評価方法:記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・言動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎		30%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	在宅看護概論						
科目名(英)	Home nursing Overview						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	角 美緒		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年						
授業概要	在宅看護論では、対象・家族の生活習慣・価値観など個別性が一層重要であることを念頭に置き、あらゆる発達段階の人間の理解をはじめ、公衆衛生・社会福祉・関係法規・各領域別看護学などで学習している基礎的知識・技術を対象者の状態・QOLに合わせて応用、創意工夫し実践する能力を養う。 在宅看護論では、在宅で生活する疾病や障害をもち療養する人、生活自立が困難で支援を必要とする人とその家族を理解し在宅での看護の基礎を学ぶ内容とする。						
授業形式	講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 在宅看護の目的と特徴が説明できる。	
	○	○				2. 在宅看護の対象者について説明できる。	
	○	○				3. 在宅看護にかかわる法令・制度とその活用について説明できる。	
	○	○				4. 在宅看護の展開について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	系統別看護 統合分野 在宅看護論						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	在宅看護のめざすもの 地域看護活動における在宅看護の位置づけ				テキスト事前通読 適宜課題実施	
	2	在宅看護における看護師の役割と機能 在宅看護の対象者の特徴					
	3	在宅看護に関連した法律・制度①「医療保険制度」「介護保険制度」					
	4	在宅看護に関連した法律・制度「訪問看護制度」					
	5	他職種との連携、対象者の権利保障					
	6	在宅看護の対象者としての家族					
	7	在宅看護における安全性の確保					
	8	在宅看護展開の特徴 在宅看護過程の特徴					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義内容を筆記試験(100%)にて評価を行う。</li> <li>筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。</li> </ul>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記弛緩	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	治療論Ⅱ 栄養学						
科目名(英)	Therapeutics II Nutrition						
単位数	1単位	時間数	10(30)	担当者	重松 由美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学	看護科 2年生						
授業概要	栄養と代謝の意義を理解し、患者指導等の看護へ活用されるよう基本的な食事療法について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				栄養管理における看護の役割が説明できる。	
	○	○				栄養管理の必要性が説明できる。	
	○	○				三大栄養素(糖質・脂肪・蛋白質)のはたらきが説明できる。	
	○	○				病院食の意義・種類がわかる。	
	○	○				嚥下障害患者における嚥下訓練と訓練食について説明できる。	
○	○				実際の栄養食を試食することによって、味・食感・形状などを学び栄養における看護アセスメント出来る。		
テキスト・教材参考図	講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ライフステージと栄養				配布資料の事前通読	
	2	生活習慣、基礎代謝量と食事					
	3	栄養状態の評価と判定					
	4	食事療法の実際、患者指導					
	5	栄養補給法の種類と方法・特徴					
評価方法	筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
修上の注	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 筆記試験(栄養100%+放射線100%+理学療法100%)/3=100% で評価を行う。						

科目名	治療論Ⅱ 画像診療・放射線医学						
科目名(英)	Therapeutic theory II Imaging and Radiology						
単位数	1単位	時間数	6(30)	担当者	鳥井芳邦 吉開友則 久賀元兆		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員担当科目	○		
対象学科・学	看護科 2年生						
授業概要	放射線の歴史、定義、画像診断の進め方について学ぶ。 放射線の種類と性質、人体への影響と対策について学ぶ。 MRIの原理、特徴、検査適応・禁忌、超音波の原理、特徴、適応、前処置等について学ぶ。						
授業形式	講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 放射線とは何か、放射線科(画像診療科)の役割についてを説明できる。	
	○	○				2. 癌治療としての放射線治療の役割、利点について説明できる。	
	○	○				3. 画像診断の進め方について説明できる。	
	○	○				4. MRIとは何か、MRI装置・原理・特徴、MRI検査での禁忌について説明できる。	
	○	○				5. 超音波とは何か、超音波検査での前処置などについて説明できる。	
	○	○				6. 放射線の種類、性質・特徴を説明できる。	
	○	○				7. 放射線の人体への影響、放射線防護の必要性・方法を説明できる。	
	○	○				8. 放射線被曝の対策、放射線治療と看護について説明できる。	
テキスト・教材参考図	講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	放射線の歴史、定義、画像診断の進め方				配布資料の事前通読	
	2	MRIの原理、特徴、検査適応・禁忌、超音波の原理、特徴、適応、前処置等					
	3	放射線の種類と性質、人体への影響と対策					
評価方法	筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(鳥井 吉開 久賀)	◎	◎				100%
修上の注	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 筆記試験(栄養100%+放射線100%+理学療法100%)/3=100% で評価を行う。						

科目名	治療論Ⅱ 理学療法						
科目名(英)	Therapeutic theory II Physical Therapy						
単位数	1単位	時間数	11(30)	担当者	山崎 哲弘		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学	看護科 2年生						
授業概要	リハビリテーションについて概念、基本的知識を理解することで対象への治療の意義について学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. リハビリテーションの定義、理念が説明できる。	
	○	○				2. リハビリテーション看護における機能・態度・方法論が説明できる。	
	○	○				3. 中枢神経系の障害(脳血管障害)のメカニズムとリハビリテーション看護の方法が説明できる。	
	○	○				4. 呼吸器系の障害(慢性閉塞性肺疾患)のメカニズムとリハビリテーション看護の方法が説明できる。	
	○	○				5. 循環器系の障害(虚血性心疾患)のメカニズムとリハビリテーション看護の方法が説明できる。	
	○	○				6. リハビリテーション室の見学授業によって、各訓練の実際(方法・器具・態度・訓練を受ける患者の様子など)が説明できる。	
テキスト・教材 参考図	系統別看護学講座 リハビリテーション						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	リハビリテーションの定義と理念、看護について				配布資料の事前通読	
	2	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護					
	3	呼吸器系の障害とリハビリテーション看護					
	4	循環器系の障害とリハビリテーション看護					
	5	リハビリテーション室見学					
評価方法	筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
修上の注	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 筆記試験(栄養100%+放射線100%+理学療法100%)/3=100% で評価を行う。						

科目名	社会・生活論						
科目名(英)	Social and Life Theory						
単位数	1単位	時間数	30	担当者	武藤桐子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	社会とは何か、また、社会における人と人との結びつきについて考えることを通し、人間を理解し看護実践の基盤を築くことを目的とする。社会学の基礎的な概念や、現代社会で生じている様々な問題について学ぶことで、社会についての理解を深め、またそれらの問題と医療・看護との関連について考えることを目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				社会と自己との関係について説明できる。	
	○	○				集団および組織についての基礎的な概念と、集団および組織が個人に与える影響について説明できる。	
	○	○				家族についての基礎的な概念と「近代家族」が成立および一般化社会的背景について説明できる。	
	○	○				家族および個人のライフコースの変化と、関連する法制度についての知識を身につけ、説明できる。	
	○	○				貧困やドメスティック・バイオレンスなど個人の健康に影響を与える社会問題についての現状と、関連する法制度についての知識を身につけ、説明できる。	
	○	○				現代社会において地域が抱える問題について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	社会学の基礎(有斐閣Sシリーズ) 社会学に関する資料全て						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	「イントロダクション:社会とは何か、自己とは何か」			配布資料の事前通読		
	2	「集団と組織」			配布資料の事前通読		
	3	「家族①:家族とは何か」			配布資料の事前通読		
	4	「家族②:家族とライフコースの変化」			配布資料の事前通読		
	5	「社会と健康」			配布資料の事前通読		
	6	「地域社会における課題」			配布資料の事前通読		
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	小児看護学方法Ⅱ						
科目名(英)	Pediatric nursing method Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	30	担当者	小金丸 翔子 乗次 瑞穂		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	小児および家族に対する看護を行う上で修得すべき知識として、小児に特徴的な症状、疾患から援助方法を学ぶ。また、慢性期・急性期・終末期および在宅をふまえた疾患の理解とともに治療・処置での小児の特有の援助方法を学ぶ。さらに、発達段階によって入院・治療が小児に与える影響を理解し、小児の自己決定権を促す説明の方法を習得する。						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 健康を障害された子どもと家族の特徴について説明できる。	
	○	○				2. 子どもの(各発達時期)身体・認知・情緒の発達と症状の関連性や症状別看護について説明できる。	
	○	○				3. 検査・処置の目的・援助の方法について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	統計看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論／臨床看護総論 統計看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 臨床看護各論						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	健康障害が小児や家族に与える影響				テキスト・配布資料の事前通読 適宜課題提示あり	
	2	小児の入院環境と病院における権利および安全管理					
	3	発達に応じた説明と同意(プレパレーション)					
	4	小児のアセスメント・計測					
	5	症状を示す小児の看護					
	6	(痛み・呼吸困難・発熱・嘔吐・脱水・けいれん・発疹・黄疸)					
	7	検査や処置を受ける小児の看護					
	8	(身体計測・採血・採尿・骨髄穿刺・腰椎穿刺・与薬・注射・輸液療法)					
	9	慢性期で活動制限が必要な小児と家族の看護					
	10	急性期で隔離が必要な小児と家族の看護					
	11	急性期で生命徴候が危険な状況にある小児と家族の看護					
	12	周手術期の小児と家族の看護					
	13	終末期の小児と家族の看護					
	14	在宅療養を要する小児と家族の看護					
15	障害(先天的・心身障害)のある小児と家族の看護						
評価方法	・2名の講師による講義内容を筆記試験70%、30%に分けて実施、合計100%にて評価する。 ・筆記試験 60%以上を合格都市、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(小金丸)	◎	◎				70%
	筆記試験(乗次)	◎	◎				30%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	情報科学Ⅱ						
科目名(英)	Information Science II						
単位数	1単位	時間数	15	担当者	中西 真由美 城野 政博 久保田 智之		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	社会が望んでいる医療の情報化を実現する為に、情報の管理や情報の利用について正しく理解する事が不可欠であり、看護師の情報活用能力を高めることを目的とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	○			Excelを応用的に活用し、グラフ作成ができる。	
	○	○				医療情報について説明できる。	
	○	○				主な医療情報システムの概要とメリットについて説明できる。	
	○	○				利用者自身を守る仕組み、院外からのコンピュータウイルスを防ぐ仕組みを踏まえて、コンピュータシステム利用時のルールを説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	Excelの使い方(グラフ作成とその編集)				配布資料の事前通読	
	2	Excelの使い方(関数機能)				配布資料の事前通読	
	3	Excelの使い方(データベース機能)				配布資料の事前通読	
	4	Excelの使い方(まとめ)				配布資料の事前通読	
	5	医療情報およびコンピュータとは何か				配布資料の事前通読	
	6	医療情報システムとは何か				配布資料の事前通読	
	7	医療情報システムの利用上の注意点 ルール・守秘義務				配布資料の事前通読	
評価方法	筆記試験にて評価を行う。1名の講師は、PC操作技術も含む。 ・60%以上を合格都市、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(中西)	◎	◎	◎			60%
	筆記試験 (城野・久保田)	◎	◎				40%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

<b>科目名</b>	成人看護学方法Ⅲ 脳・感覚・運動						
<b>科目名(英)</b>	Adult Nursing Method II: Respiration, Infection, Blood						
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	30	<b>担当者</b>	小原智恵子 樋口圭子 西島明日香 小島 薫		
<b>実施年度</b>	2019年度	<b>実施時期</b>	前期	<b>実務家教員担当科目</b>	○		
<b>対象学科・学年</b>	看護科 2年生						
<b>授業概要</b>	重点的な医学的管理を要し、深刻なセルフケア困難に陥っている成人の危機を予防・回避することを目標とした看護を学べる内容を教授する。本科目では、脳神経機能障害、感覚器機能障害、運動機能障害の視点を中心に学ぶ。						
<b>授業形式</b>	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
<b>学習目標(到達目標)</b>	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				1. 脳神経疾患患者に対する身体的および精神・社会的問題について述べるができる。	
	○	○				2. 脳神経機能障害のメカニズムについて述べるができる。	
	○	○				3. 脳神経疾患が患者の日常生活にどのような影響を与えるか述べるができる。	
	○	○				4. 感覚器系疾患患者に対する身体的および精神・社会的問題について述べるができる。	
	○	○				5. 感覚器系機能障害のメカニズムについて述べるができる。	
	○	○				6. 感覚器系機能障害が患者の日常生活にどのような影響を与えるか述べるができる。	
	○	○				7. 運動機能疾患患者に対する身体的および精神・社会的問題について述べるができる。	
	○	○				8. 運動機能障害のメカニズムについて述べるができる。	
	○	○				9. 運動機能疾患が患者の日常生活にどのような影響を与えるか述べるができる。	
	○	○				10. 各疾患の特徴を理解し、援助および患者・家族指導の重要性を述べるができる。	
○	○				11. 各疾患の特徴を理解し、援助および患者・家族指導の重要性を述べるができる。		
<b>テキスト・教材参考図書</b>	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 脳神経 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 感覚器 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 運動器						
<b>授業計画</b>	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	脳神経疾患の概要(小原・樋口)			配布資料の事前通読		
	2	脳神経の構造と機能(小原・樋口)			配布資料の事前通読		
	3	脳神経機能障害の観察とアセスメント(小原・樋口)			配布資料の事前通読		
	4	脳神経機能障害をもつ患者へのおもな看護(小原・樋口)			配布資料の事前通読		
	5	感覚器機能障害の概要(西島)			配布資料の事前通読		
	6	感覚器機能の構造と機能(西島)			配布資料の事前通読		
	7	感覚器機能障害の観察とアセスメント(西島)			配布資料の事前通読		
	8	感覚器系機能障害をもつ患者へのおもな看護(西島)			配布資料の事前通読		
	9	継続看護、患者・家族指導(西島)			配布資料の事前通読		
	10	運動器機能の構造と機能(小島)			配布資料の事前通読		
	11	運動器疾患の概要(小島)			配布資料の事前通読		
	12	運動器機能の構造と機能(小島)			配布資料の事前通読		
	13	運動機能障害の観察とアセスメント(小島)			配布資料の事前通読		
	14	運動機能障害をもつ患者へのおもな看護(小島)			配布資料の事前通読		
15	継続看護、患者・家族指導(小島)			配布資料の事前通読			
<b>評価方法</b>	・3名の講師による筆記試験1回(100%)と 1名の講師による筆記試験1回(100%)の合計の1/2の点数で評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(小原)	◎	◎				30%
	筆記試験(樋口)	◎	◎				50%
	筆記試験(西島)	◎	◎				20%
筆記試験(小島)	◎	◎				100%	
<b>履修上の注意</b>	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	成人看護学方法Ⅳ 内分泌器 体液調整・泌尿器・生殖器機能						
科目名(英)	Adult Nursing Method IV. Endocrine organ, fluid regulation, urinary organ, genital function						
単位数	1単位	時間数	30	担当者	岩橋淑恵 小松加寿子 冷川薫 佐野美和子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	重点的な医学的管理を要し、深刻なセルフケア困難に陥っている成人の危機を予防・回避することを目標とした看護を学べる内容を教授する。本科目では、内分泌器機能障害、体液調整機能障害、泌尿器障害、生殖器機能障害の視点を中心に学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	○	○			目標		
	○	○			1. 内分泌器疾患患者に対する身体的および精神・社会的問題について述べることができる。		
	○	○			2. 内分泌機能障害のメカニズムについて述べるができる。		
	○	○			3. 内分泌疾患が患者の日常生活にどのような影響を与えるか述べるができる。		
	○	○			4. 体液調整器系疾患患者に対する身体的および精神・社会的問題について述べるができる。		
	○	○			5. 体液調整器系機能障害のメカニズムについて述べるができる。		
	○	○			6. 体液調整器系機能障害が患者の日常生活にどのような影響を与えるか述べるができる。		
	○	○			7. 生殖器疾患患者に対する身体的および精神・社会的問題について述べるができる。		
	○	○			8. 生殖器機能障害のメカニズムについて述べるができる。		
	○	○			9. 生殖器機能疾患が患者の日常生活にどのような影響を与えるか述べるができる。		
	○	○			10. 各疾患の特徴を理解し、援助および患者・家族指導の重要性を述べるができる。		
○	○			11. 各疾患の特徴を理解し、援助および患者・家族指導の重要性を述べるができる。			
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 内分泌器 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 腎泌尿器 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 生殖器						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	内分泌器系疾患の概要(岩橋)			配布資料の事前通読		
	2	内分泌器の構造と機能(岩橋)			配布資料の事前通読		
	3	内分泌器機能障害の観察とアセスメント(岩橋)			配布資料の事前通読		
	4	内分泌器機能障害をもつ患者へのおもな看護(岩橋)			配布資料の事前通読		
	5	体液調整・泌尿器機能経疾患の概要(小松・冷川)			配布資料の事前通読		
	6	体液調整・泌尿器機能の構造と機能(小松・冷川)			配布資料の事前通読		
	7	体液調整・泌尿器機能障害の観察とアセスメント(小松・冷川)			配布資料の事前通読		
	8	体液調整・泌尿器系機能障害をもつ患者へのおもな看護(小松・冷川)			配布資料の事前通読		
	9	継続看護、患者・家族指導(小松・冷川)			配布資料の事前通読		
	10	生殖器機能の構造と機能(佐野)			配布資料の事前通読		
	11	生殖器疾患の概要(佐野)			配布資料の事前通読		
	12	生殖器機能の構造と機能(佐野)			配布資料の事前通読		
	13	生殖器機能障害の観察とアセスメント(佐野)			配布資料の事前通読		
	14	生殖器機能障害をもつ患者へのおもな看護(佐野)			配布資料の事前通読		
	15	継続看護、患者・家族指導(佐野)			配布資料の事前通読		
評価方法	・講師(岩橋、小松)による筆記試験1回(100%)と 講師(冷川、佐野)による筆記試験1回(100%)、系2回の試験合計の1/2の点数で評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		筆記試験(岩橋)	◎	◎			50%
		筆記試験(小松)	◎	◎			50%
		筆記試験(冷川)	◎	◎			50%
		筆記試験(佐野)	◎	◎			50%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	精神看護学概論						
科目名(英)	Psychiatric Nursing Overview						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	上田 朋紀		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	病院において 看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科 2年						
授業概要	精神の構造と機能および心的防衛機制、精神看護学の概念や目的、様々な生活の場における精神保健問題と精神保健活動および看護の役割、危機状態とその看護などを学び、他の各領域での精神健康問題を考える上での基盤とする。その他、精神保健医療福祉の変遷と制度を学び、歴史的背景や現代の動向に対する理解へつなげる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 精神看護の概念と目的が説明できる。	
	○	○				2. 精神の構造と機能および危機的状況とその看護が説明できる。	
	○	○				3. 様々な生活の場における精神保健問題と精神保健活動および看護の役割が説明できる。	
	○	○				4. 精神保健医療福祉の歴史的背景や時代の動向を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	・ニューヴェルヒロカワ 精神看護学 I 精神保健学 第6版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	精神看護の考え-精神看護学とは、看護師の役割				事前配布資料通読	
	2	精神看護の考え-心の健康、精神保健における予防の考え					
	3	心のしくみと精神的発達-精神力動論と精神情緒の発達論					
	4	心のしくみと情緒的発達-自我の防衛機制					
	5	ストレスと対処-ストレス・コーピング理論					
	6	危機(クライシス)-危機理論					
	7	生活の場と精神保健-精神保健上の問題(家族・家庭)					
	8	生活の場と精神保健-精神保健上の支援に携わる関係者(家族・家庭)					
	9	生活の場と精神保健-精神保健上の問題(学校)					
	10	生活の場と精神保健-精神保健上の支援に携わる関係者(学校)					
	11	生活の場と精神保健-精神保健上の問題(職場)					
	12	生活の場と精神保健-精神保健上の支援に携わる関係者(職場)					
	13	リエゾン精神看護					
	14	精神保健医療福祉の沿革-世界・日本における精神医療の歴史					
15	精神保健医療福祉の沿革-日本における近年の精神保健医療福祉						
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	精神看護学方法 I						
科目名(英)	Mental nursing method I						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	古賀 明弘		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 1年						
授業概要	精神障害のある対象の必要な知識の基盤として、主要な精神障害およびその要因、精神症状や問題行動に対する治療と検査について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 脳の部位・神経伝達物質と精神機能の関連について説明できる。	
	○	○				2. 精神科における代表的な検査について説明できる。	
	○	○				3. 精神科における代表的な治療法について説明できる。	
	○	○				4. 精神疾患の概念と診断について説明できる。	
	○	○				5. 精神科における主要な疾患とその治療について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	・ヌーベルヒロカワ 精神看護学方法Ⅱ 精神臨床看護学。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	脳の仕組みと精神機能-脳の部位・神経伝達物質と精神機能				テキスト事前通読	
	2	精神科における検査-臨床検査と心理検査					
	3	精神科における治療-使用される薬物の特徴、効果、副作用					
	4	精神科における治療-電気けいれん療法、精神療法、リハビリテーション療法					
	5	精神疾患の概念と診断について					
	6	主要な疾患-症状を含む器質性精神障害(F0)					
	7	主要な疾患-精神作用物質使用による精神および行動の障害(F1)					
	8	主要な疾患-統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害(F2)					
	9	主要な疾患-気分(感情)の障害(F3)					
	10	主要な疾患-神経性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害(F4)					
	11	主要な疾患-生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群(F5)					
	12	主要な疾患-成人のパーソナリティおよび行動の障害(F6)					
	13	主要な疾患-知的障害(精神遅滞)(F7)					
	14	主要な疾患-心理的発達障害(F8)					
	15	主要な疾患-小児(児童)期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害(F9)					
評価方法	・講義内容を筆記試験(100%)にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	母性看護学方法 I						
科目名(英)	Maternity nursing method I						
単位数	1単位	時間数	30	担当者	辻岡 寛		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	母性看護学方法 I では、妊娠前からの女性・家族への支援とともに、妊娠期・分娩期・産褥期の身体的変化と異常について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 出生前からのリプロダクティブヘルスケアの必要性を説明することができる。	
	○	○				2. 妊娠期の生理的変化や経過について説明することができる。	
	○	○				3. 分娩期の生理的変化や経過について説明することができる。	
	○	○				4. 産褥期の生理的変化や経過について説明することができる。	
	○	○				5. 各期における異常について述べる事ができる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	遺伝相談				テキスト事前通読、適宜課題実施	
	2	不妊治療と看護					
	3	妊娠期の身体的特性					
	4	妊娠期の心理・社会的特性					
	5	妊婦と胎児のアセスメント					
	6	分娩の要素と分娩経過					
	7	産婦の身体的変化					
	8	産婦の心理・社会的変化					
	9	産褥・胎児・家族のアセスメント					
	10	産婦の身体的変化					
	11	産婦の心理・社会的変化					
	12	産婦のアセスメント					
	13	妊娠の異常					
	14	分娩の異常					
	15	産褥の異常					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容を 筆記試験 にて評価を行う。</li> <li>・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象とする。</li> </ul>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	老年看護学方法 I						
科目名(英)	Gerontological nursing method I						
単位数	2単位		時間数	60時間	担当者	田中 美香	
実施年度	2019年度		実施時期	前期	実務家教員 担当科目	病院において 看護師として勤務	
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	高齢者は、高齢者の身体的・精神的・社会的特徴から「生活機能」の障害が生じやすい。生活機能の障害は、高齢者の「生活行動」に影響してくる。高齢者ゆえの生活行動の特徴や、それに対する援助(アセスメント看護)について学ぶ。また、高齢者ゆえの身体的特徴(加齢変化)から健康を逸脱することも多いため、その特徴的な症状・疾病・障害などをもつ高齢者の回復を支える看護、エンドオブライフケアも含めて学ぶ。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 老年看護の役割や、基本となる考え方(変遷、倫理、特徴、高齢者理解の概念など)について説明できる。	
	○	○				2. 高齢者の健康状態(加齢に伴う機能の変化)と生活の変化について説明できる。	
	○	○				3. さまざまな健康状態に応じた高齢者の看護について説明できる。	
	○	○				4. 高齢者に特有な疾患・障害と看護について説明できる。	
	○	○				5. 生活する高齢者の健康を支える看護や、高齢者を支える家族への看護について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学</li> <li>・配布資料</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	高齢者の健康状態(加齢に伴う機能の変化) 老年看護の倫理				授業内容に関わる確認テストを実施するため テキスト事前通読による学習をして臨むこと	
	2	老年看護の成り立ち(老年看護の定義)、老年看護学教育の発展 老年看護の目指すもの(考え方、生活行動モデル、目標指向型思考)					
	3	高齢者の生活(食事、摂食嚥下障害、低栄養)を支える看護 高齢者の生活(排泄、尿失禁、便秘・下痢)を支える看護					
	4	高齢者の生活(清潔、高齢者に多い皮膚障害)を支える看護 高齢者の生活(活動、転倒の防止と影響、歩行・移動)を支える看護					
	5	高齢者の生活(睡眠、休息、睡眠障害)を支える看護 高齢者の生活(性、セクシュアリティ)を支える看護					
	6	高齢者の摂食嚥下障害(嚥下機能訓練の方法)、歩行・移動(杖歩行、移乗方法)、清潔(手浴・足浴の工夫、フットケアの方法)を支える看護					
	7	高齢者の生活機能の評価、高齢者総合機能評価<CGA> 高齢者の生活機能<ICF>、高齢者の特徴的な災害時の看護					
	8	高齢者に特有な廃用症候群の看護(アクティビティケア、ロコモティブシンドローム、フレイル) 高齢者に特有な脱水症の看護					
	9	高齢者に特有な視覚障害・聴覚障害の看護 高齢者に特有なコミュニケーションと看護ケア(言語障害)					
	10	高齢者に特有な骨粗鬆症・骨折の看護 高齢者に特有なうつ病・せん妄の看護					
	11	高齢者に特有な認知症の看護					
	12						
	13	介護を必要とする高齢者の家族の看護(家族の発達課題、介護力)					
	14	受領形態に応じた高齢者への看護(外来・入院・検査・手術・退院時) 薬物治療を受ける高齢者の看護(薬物動態の変化、服薬管理)					
	15	エンドオブライフケア 人生の最終段階にある高齢者への看護					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験にて評価を行う。</li> <li>・筆記試験 60点以上を合格とし、59点以下は、再試験対象となる。</li> </ul>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	老年看護学方法Ⅱ						
科目名(英)	Gerontological nursing method Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	田中 美香		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	ペーパーバイシエントによる事例を通して、生活機能障害にある高齢者の看護過程を展開する方法を学ぶ。 (※とくに生活機能の観点から、目標志向型思考をふまえて教授する)						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 病態や心身機能・構造について、情報をアセスメント(分析・判断)したことを説明できる。	
	○	○				2. その人らしさや個人因子・環境因子について、情報をアセスメント(分析・判断)したことを説明できる。	
	○	○				3. その人の望む生活や活動・参加について、情報をアセスメント(分析・判断)したことを説明できる。	
	○	○				4. その人の望む生活を目指した健康課題(看護問題)について説明できる。	
	○	○				5. その人の望む生活を目指し、強みを活かした看護の方法(看護計画)について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学</li> <li>・老年看護学Ⅰの講義資料、その他老年看護や病態に関する資料、配布資料</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	病態や心身機能・構造について、情報をアセスメント(分析・判断)				グループ学習によって理解と分析を深める	
	2						
	3	その人らしさや個人因子・環境因子について、情報をアセスメント(分析・判断)					
	4	その人の望む生活や活動・参加について、情報をアセスメント(分析・判断)					
	5						
	6	その人の望む生活を目指した健康課題(看護問題)					
	7	その人の望む生活を目指し、強みを活かした看護の方法(看護計画)					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ学習によって完成した課題レポート提出 にて評価を行う。</li> <li>・提出課題 60点以上を合格とし、59点以下は、再試験対象となる。</li> </ul>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出課題	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						